

## 「日本理科教育学会に参加して」

初等教育学科4年 宮本 英理佳

2010年11月27日に京都教育大学で行われた、日本理科教育学会近畿支部大会に参加しました。私は「マイクロスケール実験の効率の検討」というテーマで発表しました。マイクロスケール実験を行っている中で、子どもと音楽との関わりや音楽能力の獲得方法について興味を持ち、音楽能力獲得の場を構成し、子どもが実際にどのような反応を見せるのか試してみたいと思い、この活動に取り組むことになりました。大会では佐藤先生を始めとする数人の先生方が、マイクロスケール実験についての発表を行いました。

そして、その先生方に発表を聞いていただくことができ、そればかりではなく助言をいただきたり、質問に答えてもらったりし、大変有意義な大会でした。特に京都教育大学の芝原寛泰先生は、発表の資料を書く上で先生の論文はとても参考にさせてもらっていました。その上、ため、大会前からお会いできることを楽しみにしていました。その上、何か質問があればいつでも聞いてくれればいいと言って下さいました。

また神戸女学院大学の中川徹夫先生も、マイクロスケール実験を小学校で導入する上でのアドバイスをいただき、必要ならば論文も書き上がっておらず、たった2年ほどしか研究もしていないため、本当に私が発表しても良いのかと悩みました。

発表すると決めてからは、先生方やゼミのみんなに、アドバイスをいただいたり、発表の練習に付き合ってもらったりと多くの人たちに支えられて準備を進めることができました。そのおかげで大会では、自分で納得のいく発表ができたと思いますし、感謝しています。今後はこの大会で学んだことを活かし、卒業論文を書き上げたいと思います。



## 「おんがくポッケ」

初等教育学科3年 山下 綾香

2010年11月13日、古山ゼミ3年生8名で、参加型音楽イベント「おんがくポッケ」を開催しました。古山ゼミでは、人と音楽との関わりを大きなテーマとしています。そしてさまざまな論文研究を行っている中で、子どもと音楽との関わりや音楽能力の獲得方法について興味を持ち、音楽能力獲得の場を構成し、子どもが実際にどのような反応を見せるのか試してみたいと思い、この活動に取り組むことになりました。

4歳から8歳の子どもを対象として、子どもたちに多様な音楽との関わり方・楽しみ方を提供し、音楽への興味・関心を育むこと、音楽の楽しさ、美しさを実際の演奏を通して体験させることを目的として行いました。この目的を達成するために、音楽をただ聴くだけではなく、実際に楽器に触れ自分で出した音色に耳を傾けたり、演奏方法を学んだり、ほかの人と音楽を合わせる一体感を味わったり、音楽とのさまざまな関わり方を提供できるような内容を構成しました。

子どもが難しいリズムや演奏方法に対して、真剣な顔をしながら、みんなと一緒に合わせようとする懸命な姿や、初めて見る楽器に興味を示し、実際に触り音を出そうとする姿、音が出たときの満足そうな表情などを間近で見ることができました。そしてその中で子どもが自ら学ぶという過程には、私たちの想像をはるかに超えた大きなものがあることに気づきました。年齢によって“できる”“できない”と区別する必要はなく、誰もが自由に音楽と触れ合う機会をもたせることの大切さを感じました。

イベント終了後、参加してくださった保護者の方々ともお話をすることがあり、「子どもたちが本当に自由に楽器を触ることができる場はない。今日は自由に触らせて貰てありがとう」「またこのようなイベントが定期的に行ってほしい」という言葉をいただき、嬉しさとともに、実際に保護者の方々がこのような場を必要としていることを知りました。

改善点もたくさんありました。子どもたちが楽しそうに音楽と関わる姿を見て、私たちも楽しい時間を過ごしました。機会があればまたこのような参加型音楽イベントを開催し、ひとつひとつの活動にねらいや目的をしっかりと明らかにした活動が展開できるような内容にしたいと考えています。



## 編集後記

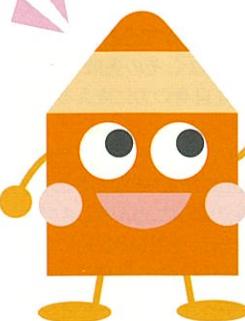
『色えんぴつ』編集委員を中心であつた07年度生の先輩方とも、いよいよお別れです。といつても『色えんぴつ』の記事探しに、先輩方を訪問させていただくこともあるかもしれません。その節はよろしくお願ひいたします。末筆ながら、先輩方のご活躍をお祈りいたします。

### 学生編集委員

3年生 古川雄一、国正耕一郎、  
2年生 乙倉里衣、日笠由貴、  
東 智子

### 教員編集委員

竹中伸夫、原奈津子、本田真美、  
村田恵子



第8号

<http://www.shujitsu.ac.jp/web/department/cultural/elementary/index.html> E-mail:shotou@shujitsu.ac.jp

## ご卒業おめでとうございます。

この度、初等教育学科の第一期生が卒業となりました。  
先生方からたくさんのお言葉をいただいています。

### 北川 岽昭先生

初等教育学科学生の持ちは、というと、目標を見据えて地道に努力すること、面倒な辛い仕事でもみんなで楽ししながらやってしまえること、困っている人がいると音楽に声をかけることができる仲間意識、教育保育の楽しさと難しさを知っている子ども好き団体、かな。一期生は、そんな就実初等の伝統の基礎を作ってくれたフロンティアでした。卒業おめでとう! 君たちはすでに就実初等のレジェンド。さらなる活躍を期待しています。

### 相原 久仁男先生

卒業おめでとう。卒業という日本語を耳にした時に英語の好きな人はgraduationという単語を思い浮かべるはずです。私も英語好きの一人です。graduationも浮かんできますが、別の気になる、お気に入りの単語も同時に浮かんできます。それはcommencementです。こちらの単語の動詞形はcommence(始める、始まる、学位を受ける)。卒業は終わりではなく、新しい世界に向けての出発、何かの開始なのです。

以上の意味で卒業おめでとう。

### 赤坂 英二先生

みなさん、ご卒業おめでとうございます。初等教育学科、第一期生のみなさんの前途を祝し、次の言葉を贈ります。

心	いつまでも 美しく
技	いつまでも 勉学に励み
体	いつまでも お元気で

### 秋吉 博之先生

ご卒業おめでとうございます。大学で学んだことを生かして、社会で活躍されることを心から期待しています。卒業後に保育士や教師として、また社会人として学んでいくことは数多くあります。例えば、社会性を身につけること、先輩や同僚から学んでいくこと、自分の専門性を伸ばしていくことなどです。これらのことと社會で着実に身につけられることを願っています。そして卒業後に、大きく成長した皆さんと再会できる日を楽しみにしています。

### 河合 富美子先生

長所を見つけることのできる社会人に。ある研修会で、養護教諭として中学校に勤務しているMちゃんに37年ぶりに出会った。私の顔を見るなりMちゃんは「保育園児だった幼い頃小さな声でしか返事のできない私にクラスの友達は、『聞こえないよ』と言ったとき、先生は『耳を澄ましてごらん聞こえるよ』とクラスのみんなに話してくれた。この時のことが今でも忘れられない」と言う。

私は全く記憶がないMちゃんの言葉に対し、あのとき大きな声で返事しようと伝えたらと思いついた。無意識の言葉の中に、子どもの心を傷つけ

たり勇気づけたりすることがある。子どもには個性があり、得意とするものをもっている。弱いところを修正するよりも、得意とするものを見つけて伸ばすことが保育、教育する者の役目と思う。

### 門松 良子先生

ご卒業おめでとうございます。4月からは、いよいよ社会に出てみなさんの力を發揮することになります。これから様々な人との出会いがあると思います。いつも「一人ひとりを大切に」ということを忘れないで、人とのかかわりを大切にしてほしいと思います。就実大学初等教育学科の1期生として、みんなが活躍されることを期待しています。

### 古山 典子先生

初等を巣立ち、それぞれの道へ踏み出すみなさんへ。これから進む道でどんな困難が待ち受けているかはわかりません。でも…「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ」。努力は進むべき道を照らしてくれます。解決できないと思うような困難でも、もがいていれば事態は必ず動き始めます。失敗しても大丈夫。みんな失敗しながら生きています。好奇心と探究心を忘れず、自分に恥じない人生を歩んでください。

### 佐藤 和順先生

「サルも木から落ちる。でもまた登ればよい。」木から木へ、上手に移動する猿さえも、時には手を滑らせ地に落ちることがあるといいます。得手なことでさえも、失敗が起らうのです。不得手なこと、苦手なことならなおさらです。猿が木から落ちる。でも、また登て次の木へと移動する。失敗した地点でとどまっていたら、その先の進歩・成長はありません。これから社会に出て多くの失敗を経験することでしょう。しかしまた挑戦すればよいのです。皆さんのご活躍を祈念しております。

### 竹中 伸夫先生

ご卒業おめでとうございます。早いもので、入学から4年という月日が経ちました。4年前はどんな自分でしたか。少し4年前の自分を思い出し、現在の自分と比べてみてください。いかがでしょうか。きっと外見だけでなく、考え方や知識の幅などといった内面においても、どこか違うのではないかでしょうか。その違いは、皆さんが4年間かけてなした努力の証です。この4年間の努力の証をもとに、これから社会での活躍を期待します。

### 棚田 真由美先生

「初めての子はかわいい」といいますが、初等教育学科第一期生の皆さんへの思いもそれに通じるものがあります。4年前、縁があって就実大学に集まってきた学生の皆さんと教員の私。何もかも一から作り上げていくような日々の中で、私自身も皆さんに成長

初等教育学科だより

就実大学人文科学部初等教育学科  
〒703-8516 岡山市中区西川原1-6-1  
TEL.086-271-8111(代表)

2011年3月1日発行

させてもらったという感謝の気持ちでいっぱいです。就実で得た知識や経験、そして何よりも人のつながりが、これから的人生の中で皆さんの支えとなってくれることを祈ります。ご卒業おめでとうございます。

原 奈津子先生

ご卒業おめでとうございます。  
日々の忙しさに埋没しきくなってしまって、研究心への水やりは忘れないでください。立ち止まって考える時間を大事にしてください。

藤井 貞子先生

卒業してゆく皆さんへ  
卒業してゆく皆さんにこれからどんな日々が待っているでしょうか。自ら決めた進路に期待いっぱいの人や、自分のこれから立場の厳しさを自覚している人など4年間の思い出とともにそれぞれあることでしょう。2011年元旦は身近な場所で見事な初日の出と、思いがけない大雪に見舞われた地域とにかく分かれました。この天候の様に皆さんの進路にも様々な状況があることでしょう。どうぞ、どんな場面に会っても自分自身をあたたかく受け止め、それぞれの大切なものを積み重ねて自分らしく生きさせて下さい。

藤田 知里先生

以下は、映画「ショーシャンクの空」の中で、主人公アンディが友人レッドへ宛てた手紙の抜粋です。「忘れちゃいけないよ、レッド。希望はいいものだ、たぶんによりもいいものだ、そして、いいものは決して死れない。」卒業おめでとう!

本田 真美先生

卒業おめでとうございます。1期生の卒業をお祝いできることを心よりうれしく思います。大学で学んだこと、感じたことを糧として、勇気をもって新たなことにチャレンジしてください。自分から学ぶ姿勢があれば、いつでも、どこでも、だれからでも学ぶことができます。敬意をもってお互いを認め合い、自分自身の力で生き抜いてくれることを願っています。

宮川 洋子先生

ご卒業おめでとうございます。太陽のような“ここ”を持ち、自分らしさを發揮して、社会に貢献できる人になってください。たとえ、厳しい冬が来たとしても、じっと雪の下で準備していたら、必ず雪が溶けて春がやって来ます。

宗高 弘子先生

卒業おめでとうございます。  
人生は旅に例えられます。どの道にも苦労がありますが、楽しみもあるはず。  
健健康に留意して、就実での学びを糧に、夢に向かって一步歩進んでください。

村田 恵子先生

「未見の我」という言葉を遺した方がいます。たくさんの人と出会い、いろいろな出来事を経験しながら、わたしたちは、日々新しい自分へと変化しています。どんなときも、自分を信じて、しっかり顔を上げて進んでください。応援しています。



初等教育学科4年 三谷 祐巳

私たち2007年の春、初等教育学科の1期生として就実大学に入学しました。1期生ということで、先輩がいらず、学生としても何もかもが手探り状態でした。しかし、友人と協力し合ったり、先生方からアドバイスをいたしました。様々なことを乗り越えてきました。不安なこともたくさんありました。自分たちで初等教育学科の歴史をつづっていくことの楽しみもありました。学生の声で始まった初等教育学科大運動会が、現在でも恒例行事の1つになっています。

私は大学4年間の中で、保育所、幼稚園、小学校での「実習」と「教員採用試験」に向けた取り組みが特に印象に残っています。1年生では学童保育でのインターンシップ、2年生では保育所保育実習と施設実習、3年生では幼稚園教育実習と介護等体験、そして4年生では小学校教育実習、とさまざまな実習を経験させていただきました。小学校教育実習での担当クラスの子どもたちの「三谷先生の国語の授業で、国語辞典を引くのが楽しくなった」、「来年は私たちの担任の先生になって」という言葉を励みに、小学校の教員採用試験を受けました。

採用試験対策では、友人と筆記試験の勉強や模擬授業の練習をしたり、先生方に面接練習をしていただきました。試行錯誤しながら多くの経験や周りの人々の支えがあったからこそ、今の私があり、教員採用試験合格につながったのだと思っています。